とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎月5の日発行　1カ月300円　1カ年前納 3,000円

十月に開基七十年式典

明治四十一年四月一日に白糠村ほか六村から分村して本町が発生してから七十年を迎えるので「理想郷足寄」を築くために「足寄町七十年の歩みを回顧し未来の発展を目指す」ことをテーマにして記念行事をおこないたいとして提案を示しました。

それによると、記念式典の期日は十月二十日、場所は西小学校体育館で、記念事業としては

一、各種功労者表彰
二、記念碑（重見が丘公園、各学校々地標柱）
三、足寄発祥の地、中足寄に記念碑の建設
四、記念誌の発行
五、教育目標の制定
六、町花木鳥の選定

などとなっていますが、これに対して藤山議員は「金額でも数すくない」「駅通り」や「重見神社参拝道」など歴史に残る施設を意見が出され、町長は「公園内に碑設保存し、旧平和小学校にあつめられた田時代の農具、生活用具などの陳列施設を記念事業として考えるべきだ」、神本、春山議員からはありきたりの祝賀会でなく町民総参加の意義深い行事にすべきだなどの意見が出され、町長は「充分に検討する」として、午後四時十分に閉会しました。

足寄町議会

足寄町議会の第一回臨時会は三十日午前十時五分にひらき（次席は石田富男、高橋保夫の両議員）会期を一日として、ただちに議案に入り、はじめに老人医療費の助成に関する条例の一部改正案を上程しましたが六十五才以上（妻は六十才以上）の世帯にワクをひろげたものの、逆の制約が厳しくてこの改正案で恩恵をうけられるのは町内でわずか九世帯にすぎないということで各別博応議員を筆頭に多くの議員から不満の意見が出たので、小林町長は「これはこれで通してもらって二月一日から実施し、町独自の老人医療助成策を六月定例会に提案する」と言明して原案どおりに議決しました。

つづいて町の名称と区域の変更についても原案どおり議決となりましたが、大字、小字など二百以上もあつて不便なので、これまでの名称、区域（カッコ内）をつぎのように改正して道の認可を得て四月一日から実施となります。

新町（足寄郡）
共栄町（川南、共栄）
平和（平和、昭和、上足寄）
新太）
稲牛（更生、稲牛、上稲牛、白糠、新道）
中足寄（中足寄）
螢雪本町（市街地）
螢雪（螢雪台）
上螢雪（螢雪台）
富士見）
上足寄本町（市街地）
上足寄（笹原、宮城、鳥取、茨城）
茂足寄（伊奈、上白滝）

以上が東部地区で、字をなくして足寄町新町何番地となり、足寄市街地区は五十四年度までに、中部地区（上利別、大善地）は五十五年度、西部地区（平愛）は五十六年度に改正の予定です。

ついで一般会計予算の補正などを議決、産業委員会（仲本三也委員長）に付託の「国の森林、林業政策の抜本的転換と営林局、署の廃止反対の決議を求める」全林野労組足寄分会（峯口二郎委員長）からの請願を採択と決定して関係方面へ要望意見書を送付することにしました。

このあと議員会にうつして、小林町長から

法人化決定
足寄町の社協

足寄町社会福祉協議会では二十三日に役員会をひらき、昨年来申請中の社会福祉法人化について、厚生省では十二月三日に認可、一月七日に認可書が到着、十二日に三宅理事長名によつて設立登記を完了したとの報告があつて法人化が決定しました。

とんごの手続きとしては早急に評議員会（三十名）

更生開始を決定
井手木材の管財人に池田氏

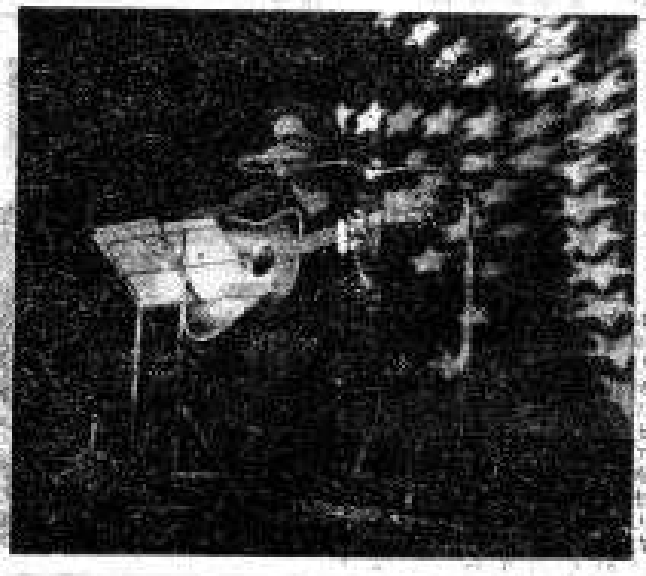
釧路地方裁判所帯広支部では十日付で前別町の井手木材株式会社から申請のあつた会社更生法にもとずく更生開始の認可をし、管財人にはこれまで保全管理人だつた池田宗雄氏を任命し、第一回の債権者集会は三月六日午後一時三十分から同支部でひらくことになりました。

裁判所側が昨年十月に同工場を調査したさい、現在工場の設備というこまかい工程作業のために人手はへらせない工場であるし、町や議会をはじめ商工会や木材業界が井手木材の再建に協力的であることが更生開始にふみ切つたものとみられています。

かつて井手社長といつしよに足寄町でポーリング場をひらいた高橋幸雄氏が乳橋からかけつけて、町内の債権者のほとんどを高橋氏が引替り整理してくれたし町外の債権者のなかでも、これまでの取引関係から別つたときはお互いとばかりに債権放棄の申し出があつたりして、債権者は四十八名くらいにへり、債務総額は三億八千万円程度ではないかとみられています。

井手木材は二年度の会計決算の締めくくりをまつて四月早々に評議員会をひらいて法人化にともなう諸れ相則案、事業計画案、予算案の審議をはかることになりました。

松山千春 写真特集



写真は右上から
豊橋で
成人式のとき
高校時代のバスケット
手をふるステージ
初テレビのアップ
右下から
喫茶店で
砂川FMのつどい
中学生時代
いずれも昨年の本紙に掲載